令和６年度連続歴史講座　全４回

交流の考古学

第４回

2024年　6月　6日　（木）　10:30～
愛知県埋蔵文化財調査センター2階　研修室

縄文土器の様相から見える東海西部の地域性と他地域交流

川添和暁

5.縄文土器から見える交流

隣接地域に類似の文様意匠が展開する。
漸移的かつ相互方向の場合が多い。

→縄文土器型式の前提であり、縄文土器型式編年表の作成へ。

土器の様相変化は面的に推移するものが多いものの、
搬入土器の場合、分布域を離れた遠くで点的に分布することがある。

文様・・・広域的に展開しうる要素
　施文方法を詳細に見ると、地域の特色が表出していることもある。

器面調整・・・その地域に密着した製作痕跡の代表

お問い合わせ先
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24
Tel. 0567-67-4163　Fax.0567-67-3054
http://www.maibun.com/

「土器の底」
（起源）

諸磯式

厚手式

薄手式

亀ケ岡式

縄紋土器型式の大別と細別

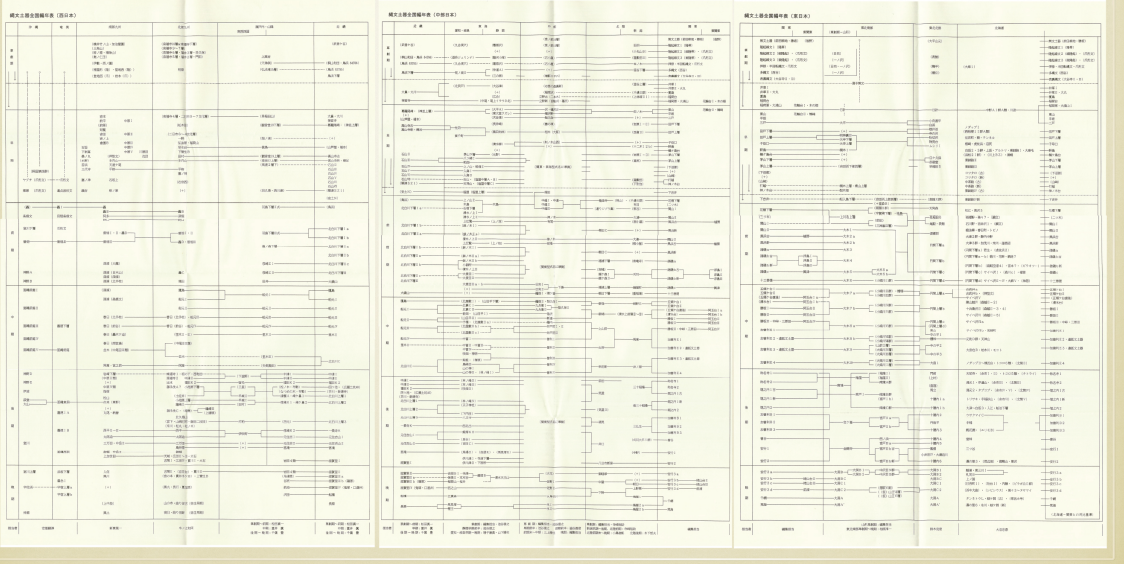
	渡島	陸奥	陸前	関東	信濃	東海	畿内	吉備	九州
早期	住吉	（+）	愛木 1 〃 2	三戸・田戸下 子母口・田戸上 茅山	曾根？×	ひじ山 粕畑		黒島×	戦場ケ谷×
前期	石川野× （+）	円筒土器 下層式 （4型式以上）	室浜 大木 1 〃 2a, b 〃 3—5 〃 6	蓮田式 { 花積下 関山 黒浜 諸磯 a, b 十三坊台	（+） （+） （+） 踊場	鉾ノ木×	国府北白川 1 大歳山	磯ノ森 里木 1	轟？
中期	（+） （+）	円筒上 a 〃 b （+） （+）	大木 7a 〃 7b 〃 8a, b 〃 9, 10	五領台 阿玉台・勝坂 加曽利E 〃（新）	（+） （+） （+） （+）			里木 2	曾畑 阿高 出水 } ?
後期	青柳町× （+） （+）	（+） （+） （+） （+）	（+） （+） （+） （+）	堀之内 加曽利B 〃 安行 1, 2	（+） （+） （+） （+）	西尾×	北白川 2 ×	津雲上層	御手洗 西平
晩期	（+）	亀ケ岡式 { （+） （+） （+） （+）	大洞B 〃 B—C 〃 C1, 2 〃 A, A′	安行 2—3 〃 3	（+） （+） （+） 佐野×	吉胡× 〃 × 保美×	宮滝× 日下×竹ノ内× 宮滝×	津雲下層	御領

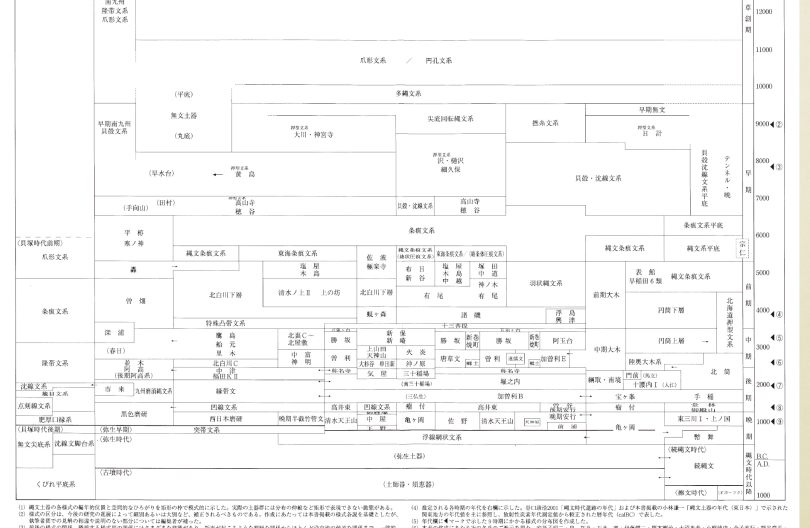
註記 1. この表は仮製のものであって，後日訂正増補する筈です。
2.（+）印は相当する式があるが型式の名が付いて居ないもの。
3.（×）印は型式名でなく，他地方の特定の型式と関聯する土器を出した遺跡名。

山内清男　1937　「縄紋土器型式の細別と大別」『先史考古学』1-1．29～32頁

縄文土器型式編年表

縄文時代文化研究会　1999『縄文時代10』より

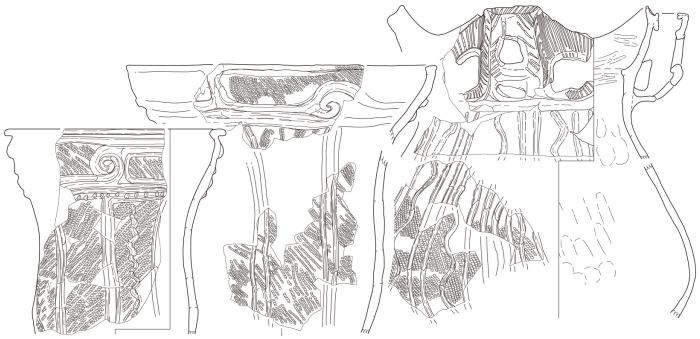




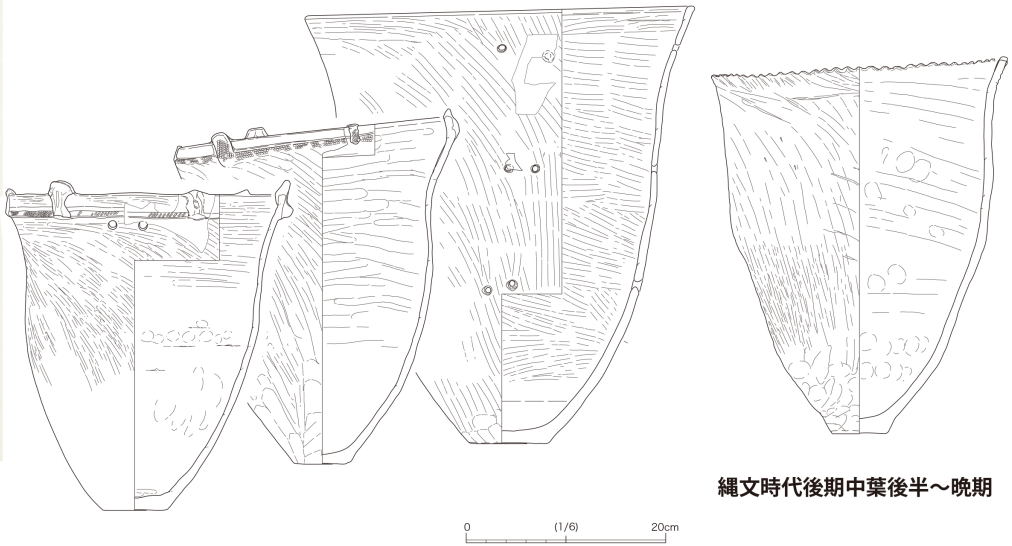
小林達雄編
2008
『総覧縄文土器』
付図
（株）アム・プロモーション

川添資料
2

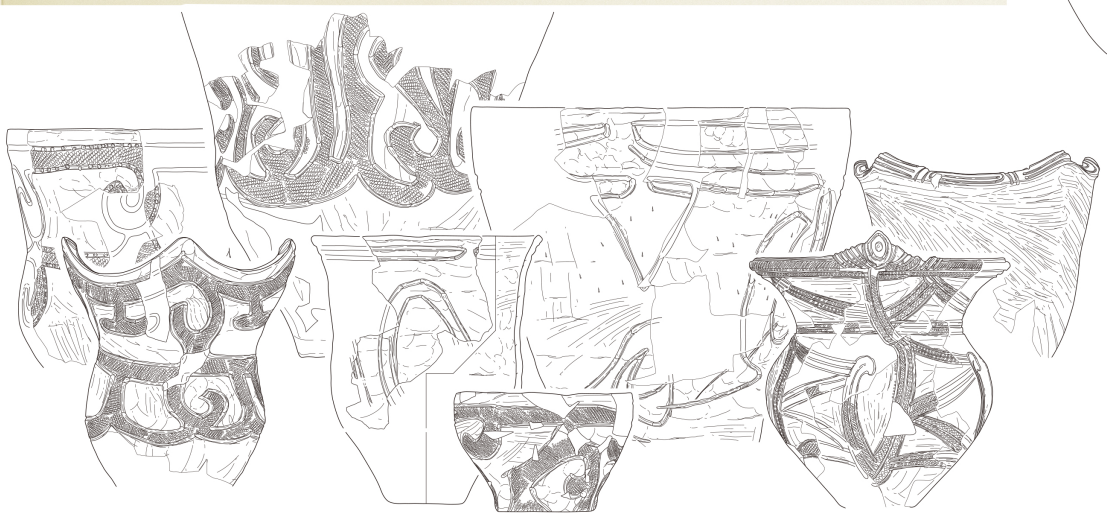
設楽町笹平遺跡



縄文時代中期後半



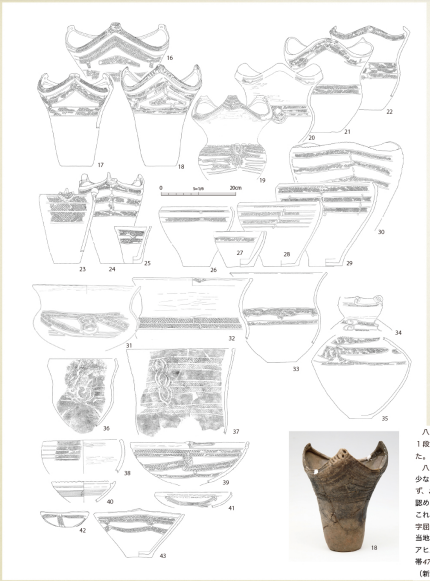
縄文時代後期中葉後半〜晩期



縄文時代後期初頭〜前葉 / 中葉前半

III層出土土器

八王子1式



八王子貝塚では、昭和56年調査によって、II層から加曽利B1式に併行する後期中葉第1段階の土器群、III層から加曽利B2式に併行する後期中葉第2段階の土器群が出土した。この層位的出土に基づき、前者は八王子1式、後者は八王子2式と称されている。

八王子1式を特徴づける土器は、3単位の山形波状口縁深鉢である。胴部での屈曲の少ない器形16~18と、屈曲する器形19~22があり、沈線区画内の充填縄文のみならず、3本以上の沈線をまたいだ縄文帯の存在が大きな特徴となっている。18の口縁部に認められる波頂部の円形刺突と同心円状の弦線や20の胴部に認められるV字形沈線も、これらの深鉢によく認められる文様である。八王子2式では、口縁部幅の狭い、「く」字屈曲をした平縁深鉢が多く、胴部下半もソロバン玉状に屈曲する器形が散見される。当地域に特徴的に認められる要素としては、刻み目を有する貼付紐文帯47・54・56や、アヒル口状の突起46・50などがある。アヒル口状の突起や口縁部に集約される貼付紐文帯47は、堀塚KII式などよりも新しい段階に主体となる装飾と思われる。

（新編 西尾市史資料編　より）

II層出土土器

八王子2式

層位学的出土状況と広域編年網に当てはまった型式学的研究成果が一致する。

アカニシ 水磨 欠損　表面

アカニシ 水磨 欠損　欠損部

アクキガイ科 水磨 欠損

「中型巻貝調整」